

子育てノンストップについて

子育てノンストップの基本コンセプト（全体イメージ）

子育て（妊娠～幼児期）に係る様々な官民のサービスについて、

- ・必要なタイミングで、**必要な情報**が、**プッシュ型**で案内され、
- ・利用者は**意思決定のみ**を行い、煩わしい**申込や手続から解放**される

子育てノンストップサービスを実現し、子育て負担の軽減を図る。

- 利用者が日常的に使う民間子育てポータルに、子育て関係の行政サービスの入り口を構築。
- 利用者は、ポータルに利用者情報を登録することで、最適なタイミングで官民のサービスの案内を受けることが可能。
- 利用者はポータルに登録した情報を基にボタン一つで民間サービスの申込が可能に。行政手続についても、手続に必要な資料は登録情報を基にポータル側が作成し、利用者は作成された資料を確認するだけで手続完了。

<子育てポータルにおける行政サービスのフロー（イメージ）>

①ダウンロード・情報登録

- ・民間事業者によって作成された、アプリをダウンロード。
- ・本人情報や子の情報を登録（住所、生年月日等）。

②プッシュ通知

- ・登録された情報を基に、利用者にとって必要な情報や行政手続をプッシュ型で案内。
- 例：
-児童手当の現況届の提出案内
-子の月齢から必要な健診を案内

③選択・確認・申請

- ・プッシュ型案内を踏まえて、申請する手続を選択。
- ・手続に必要な資料は民間ポータル上で自動作成。
- ・利用者は作成された資料を確認し、申請ボタンをクリックすれば手続完了。

④サービス

- ・申請を基に、利用者に対してサービス提供。
- ・民間サービスについても、登録情報を基に簡便に利用可能。

子育てノンストップの基本コンセプト（検討の進め方）

1. 行政手続の見直し

- 既存の行政手続の電子化ではなく、最大限効率化すべく手続の要否も含めて、徹底した見直しを実施。
- また、地方自治体が既に保有している住民情報とのバックオフィス連携により、提出の必要性の乏しい情報は不要化する。
- 以上を踏まえても必要な申請等手続については、少なくとも電子化を実施。
- 手続や内部業務の効率化により、手続負担を低減。対面での支援、確認の機会を確保する。

2. 民間事業者・自治体との連携

- 官民の様々な子育てサービスのシームレスな連携、属性情報に基づく最適なプッシュ型サービスの提供を可能とする連携の在り方について、官民の関係者が幅広く参集した場において検討。

3. 子育てノンストップサービスのアーキテクチャー構築

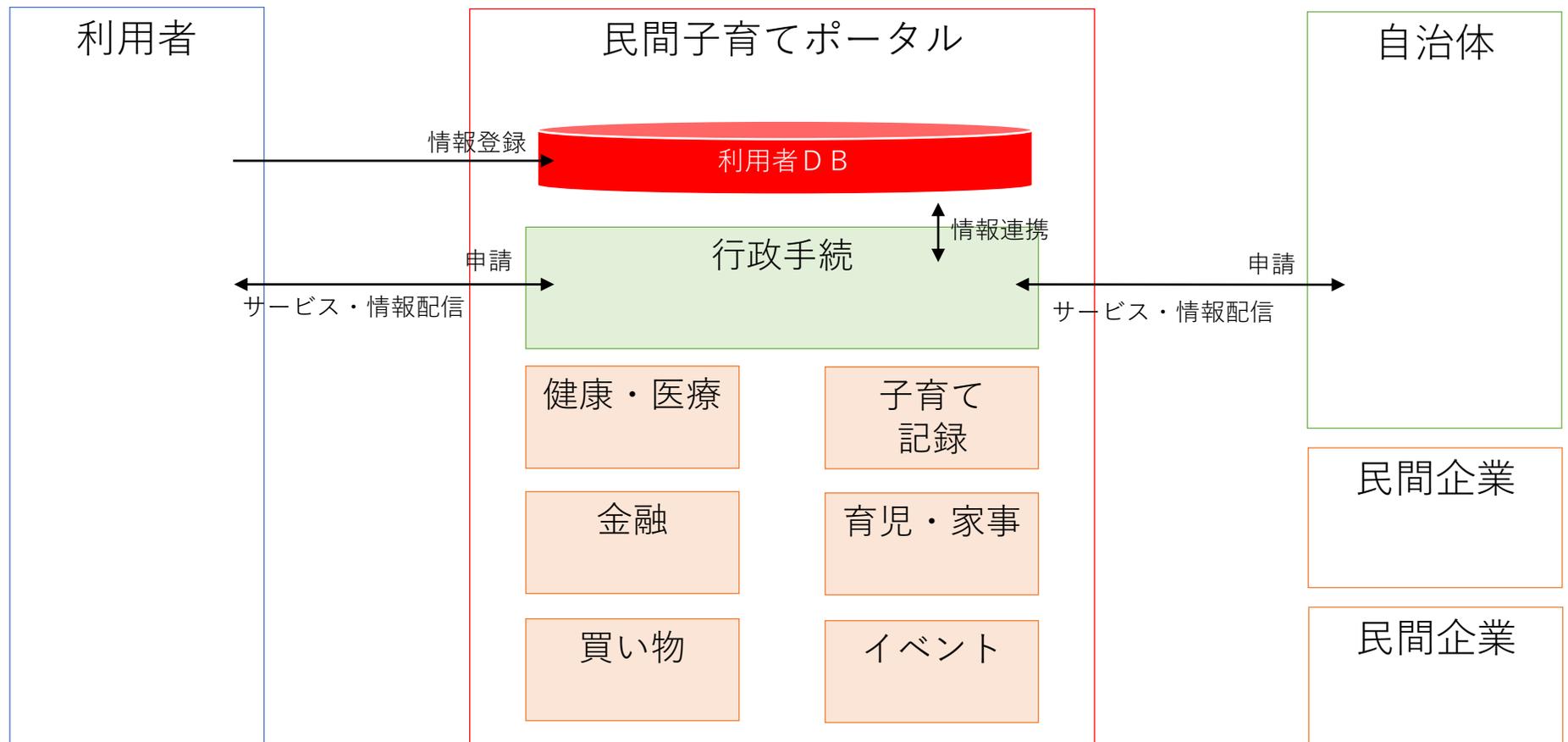
- 官民の関係者が幅広く参集した場等での議論を通じて、最適なサービスの在り方やシステムアーキテクチャを検討。
- 電子化の効果を最大限発揮するため、自治体内部の業務フロー、システムの在り方についても併せて検討。また、検討においては自治体の規模やニーズにも配慮。

4. 先行自治体でのモデル実証

- 検討・構築したサービスモデルについて、まずは特定の地域において先行的にモデル実証を実施。

子育てノンストップ基本コンセプト（サービスデザイン）

- ・ 日常的に用いるポータルが行政との窓口としても機能。
- ・ 利用者は、ポータルに利用者情報を登録することで、最適なタイミングで官民のサービスの案内を受けることが可能。
- ・ 利用者はポータルに登録した情報を基にボタン一つで官民の様々なサービスの申請・申込が可能。



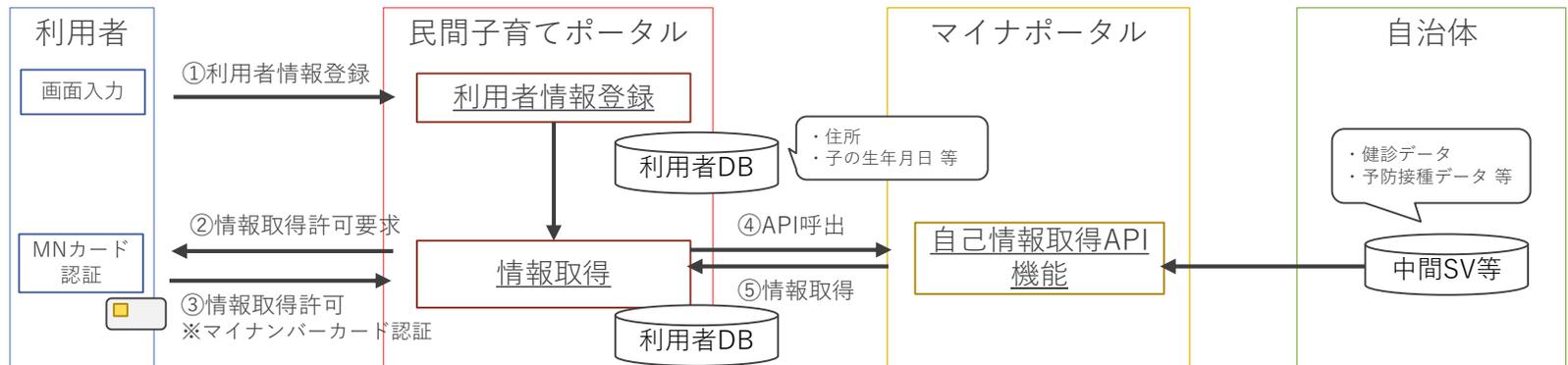
(参考) 子育てノンストップ アーキテクチャ (イメージ)

- ①個人属性に応じた行政情報のプッシュ提供
 - ②申請行為の簡易化、簡略化 (記載済申請書の提供+利用者確認+申請ボタン押下のみ)
- 対象となる行政サービスは妊娠～幼児期まで (ひとまず)
- 例：妊娠届出、出生届、健康保険加入、児童手当、保育所入園手続、その他イベント情報、施設予約 等

【①個人情報に応じた行政情報のプッシュ提供】

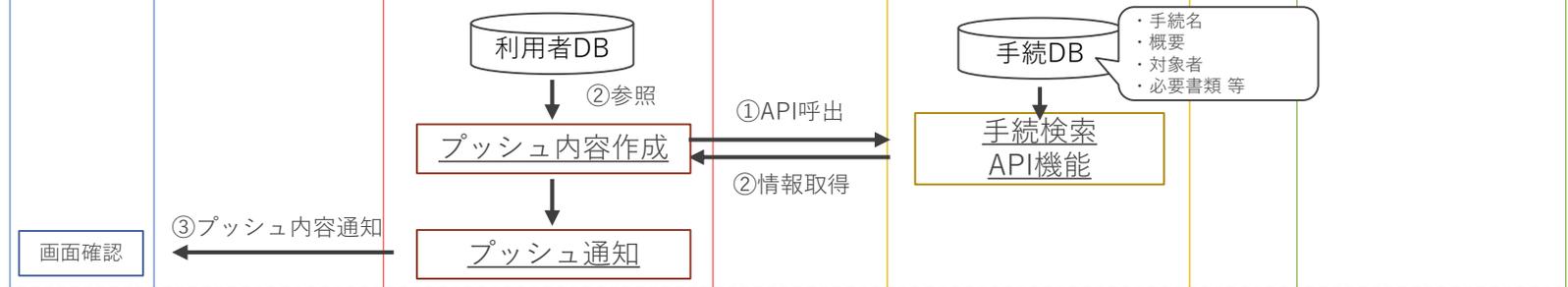
【利用者情報登録】

- ①:利用者は民間ポータル上で利用者情報を入力し、登録する。
- ②③:利用者は民間ポータルに対し、マイナンバーカード認証を通じて、情報取得の許可を行う。
- ④⑤:民間ポータルはマイナポータルAPIを利用し、利用者の情報を自治体から取得し、登録する。



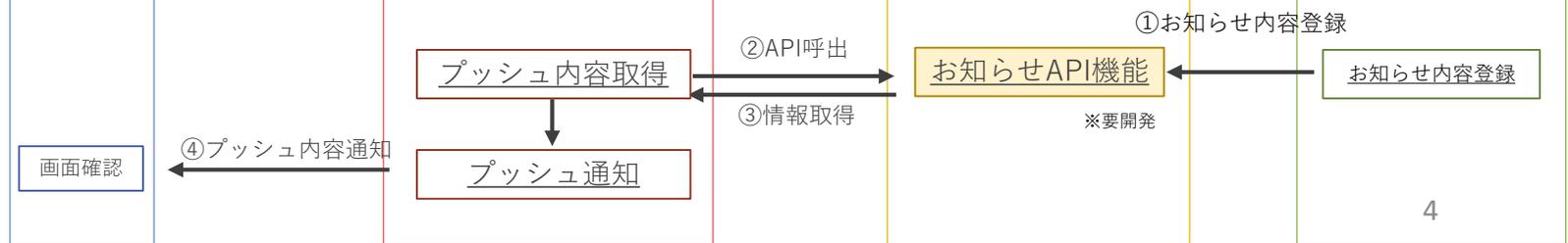
【プッシュ通知】 ※民間ポータルで作成

- ①②:民間ポータルはマイナポータルAPIを利用して手続情報を取得し、利用者の属性に応じたプッシュ内容を作成する。
- ③:作成したプッシュ内容を利用者へ通知する。



【プッシュ通知】 ※自治体で作成

- ①:自治体はマイナポータルにお知らせ内容を登録する。
- ②③:民間ポータルはマイナポータルAPIを利用してマイナポータル上のプッシュ情報を取得する。
- ④:取得したプッシュ内容を利用者へ通知する。



(参考) 子育てノンストップ アーキテクチャ (イメージ)

①個人属性に応じた行政情報のプッシュ提供

②申請行為の簡易化、簡略化 (記載済申請書の提供 + 利用者確認 + 申請ボタン押下のみ)

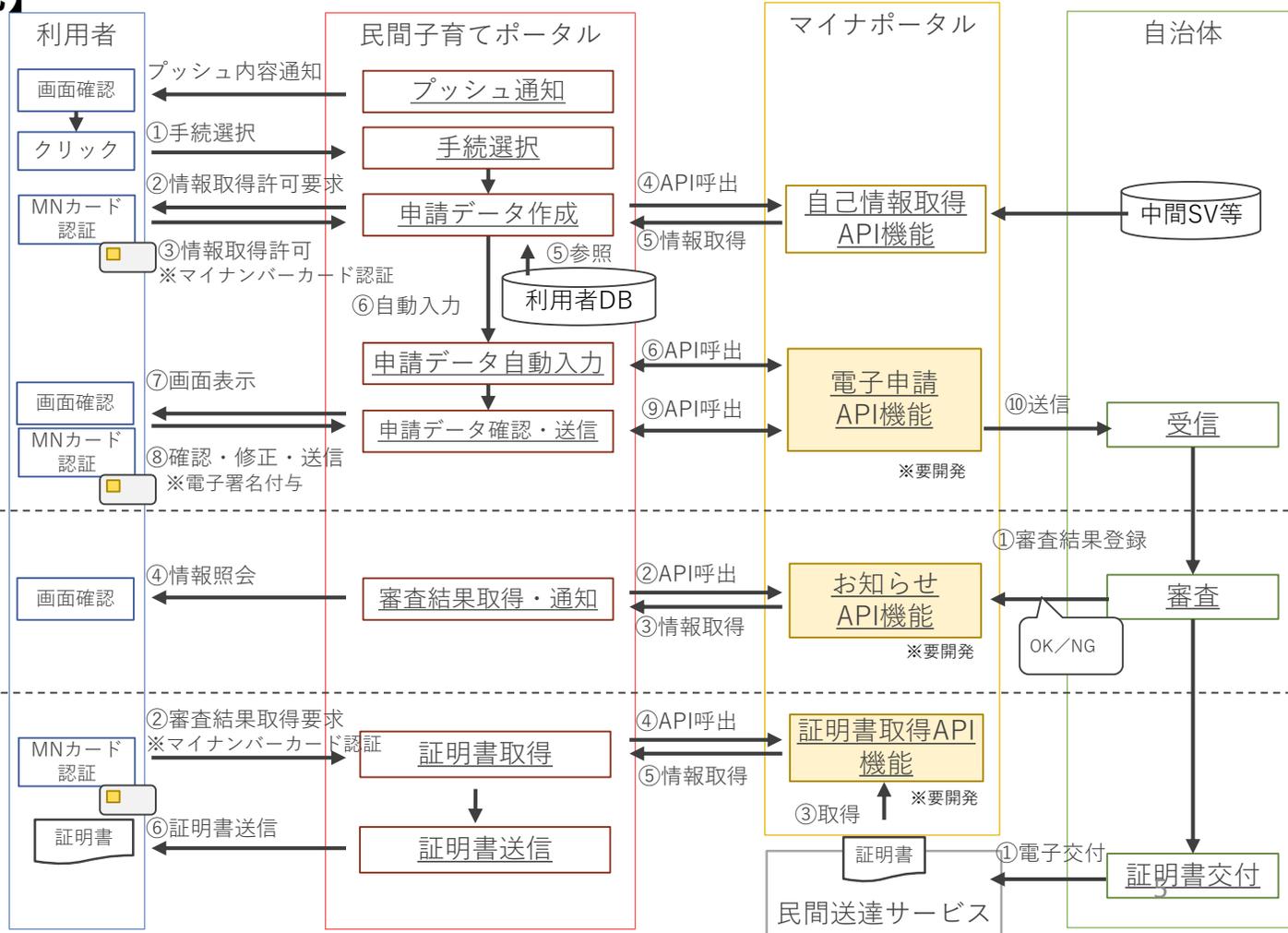
対象となる行政サービスは妊娠～幼児期まで (ひとまず)

例：妊娠届出、出生届、健康保険加入、児童手当、保育所入園手続、その他イベント情報、施設予約 等

【②申請行為の簡易化、簡略化】

【申請データ作成・送信】

- ①:利用者は民間ポータル上で、プッシュ通知を受けた手続の中から申請したい手続を選択する。
- ②③:利用者は民間ポータルに対してマイナンバーカード認証を行い、情報取得の許可を行う。
- ④⑤:民間ポータルはマイナポータルAPI及び利用者DBから、手続に必要な申請情報を作成する。
- ⑥:民間ポータルは、④で作成した申請データを自動入力する。
- ⑦⑧⑨⑩:利用者は民間ポータル上で申請データを確認し、必要に応じて修正する。
※電子署名が必要な場合、利用者はマイナンバーカード認証を行い、電子署名を付与して送信を行う。



【審査結果確認】

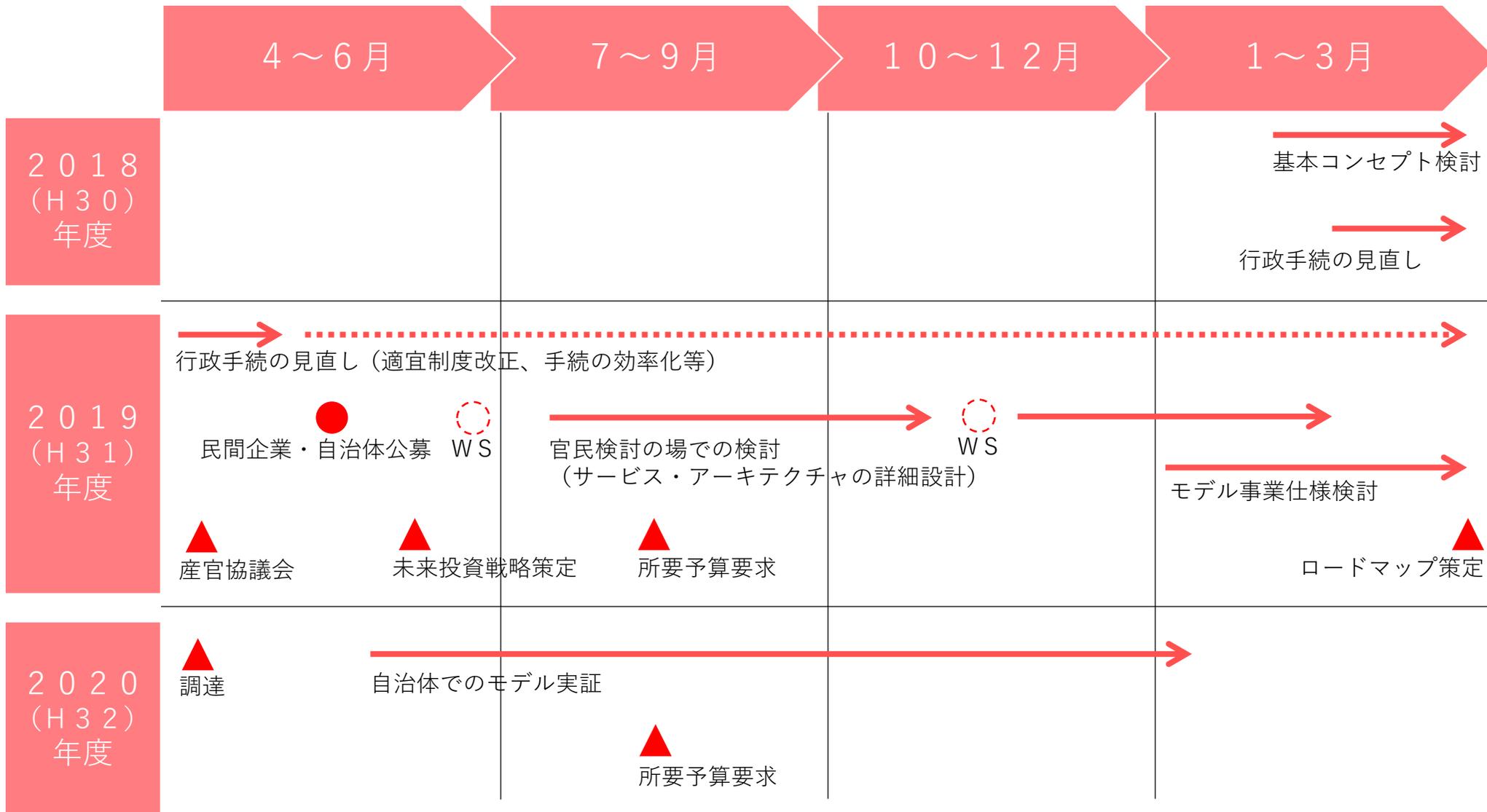
- ①:自治体は審査結果をマイナポータルに登録する。
- ②③:民間ポータルはマイナポータルAPIを利用してマイナポータル上の審査結果を取得する。
- ④:取得した審査結果を利用者へ通知する。

【証明書確認】※証明書がある場合

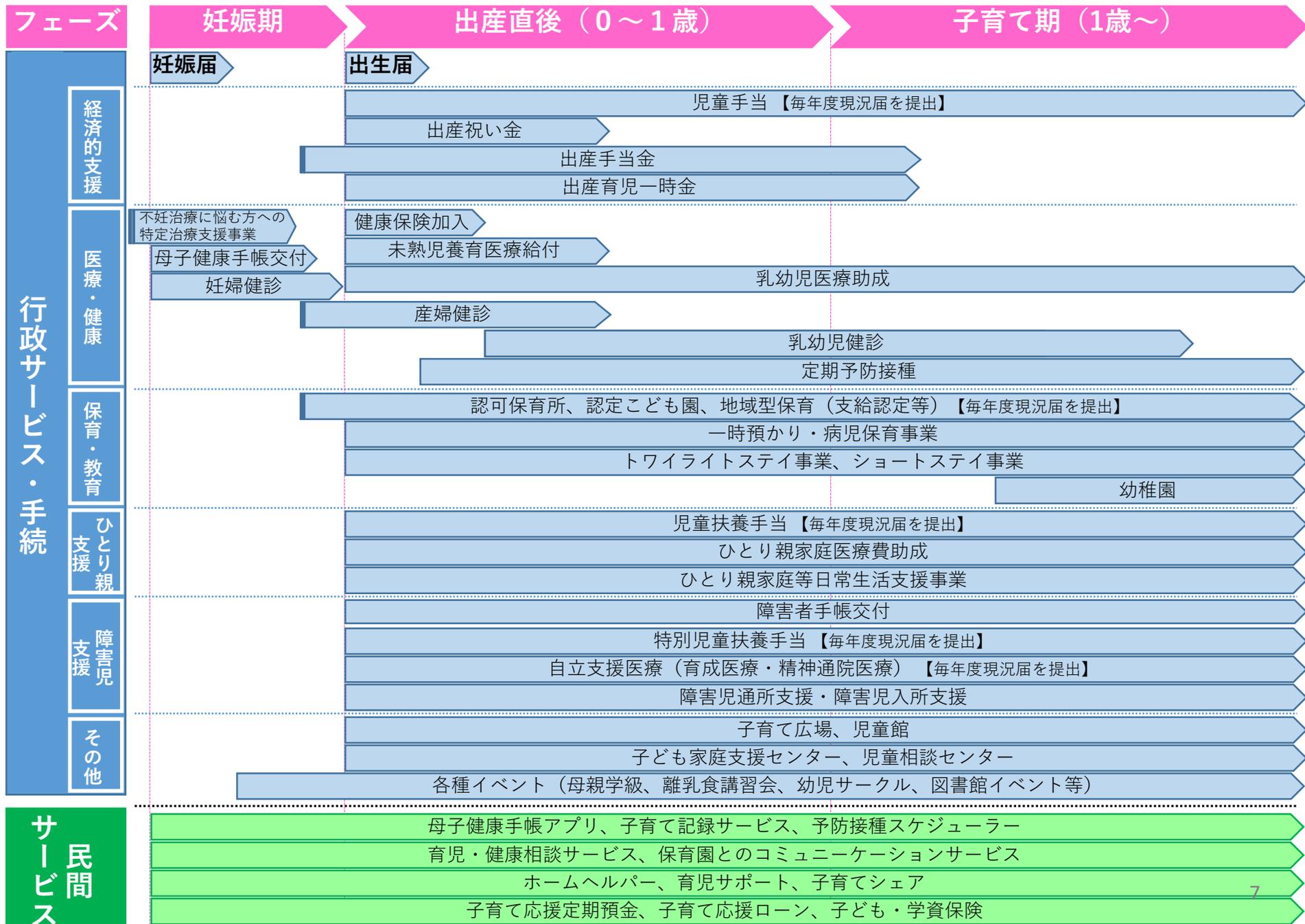
- ①:自治体は証明書を民間送達サービス上に電子交付する。
- ②:利用者は民間ポータルに対してマイナンバーカード認証を行い、証明書の取得を行う。
- ③④⑤:民間ポータルはAPIを利用し、マイナポータルから証明書を取得する。
- ⑥:利用者は民間ポータル上から証明書を取得する。

(参考) 子育てノンストップスケジュール

おおむね以下のスケジュールで、検討を進めることを想定。



(参考) 子育てに係る官民の主なサービス・手続 (ジャーニーマップ)



(参考) 「未来投資戦略2018」及び「経済政策の方向性に関する中間整理」における関連記載

○未来投資戦略2018（平成30年6月15日 閣議決定）抄

[3]「行政」「インフラ」が変わる

1. デジタル・ガバメントの実現（行政からの生産性革命）

（3）新たに講ずべき具体的施策

i) 旗艦プロジェクトの推進

①個人向けワンストップサービスの実現

- ・個別手続のみに着目した従来の「縦割り」型のオンライン化から脱却し、徹底した利用者視点に立ち、多くの国民の生活に大きな影響のある個人向け行政手続等のワンストップ化を強力に推進する。
- ・具体的には、同じ内容について複数の異なる窓口での手続を強いられている「引越し」や「死亡・相続」については、それぞれ来年度から、「介護」については本年度から、順次サービスを開始する。

○経済政策の方向性に関する中間整理（平成30年11月26日 未来投資会議 まち・ひと・しごと創生会議 経済財政諮問会議 規制改革推進会議）

第2章 成長戦略の方向性

1. Society5.0の実現

③スマート公共サービス：「待ち時間ゼロ、窓口手続きゼロ」

（個人向け手続きの自動化～子育て、住所変更、引越し、死亡・相続等の個人手続きの自動化）

- ・例えば、出生時に申請すれば、その後の予防接種や保育園の入園の手続き等が最適なタイミングにプッシュ型で案内が来て、個人は意思決定のみを行い煩わしい書類手続きから解放されるサービスの実現方策を検討する。